

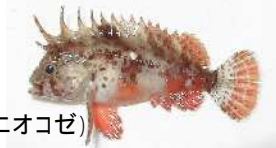
# 危険な海中生物

香川県地区小型船安全協会 / 高松海上保安部 / 坂出・小豆島海上保安署

**【アカエイ】** アカエイは尻尾の先端と付け根部分に強い毒をもつ棘をもっています。刺されたらまず**毒を絞り、患部を水または湯で洗い流し早急に病院で治療を受ける必要があります。**死んだものでも尾には毒が残っているので注意が必要です。  
(遠浅の海水浴場では砂に潜っているアカエイを踏んで受傷することがあるが自ら攻撃してくることはありません。)



**【オコゼ】** 見た目は岩などに似ています。背ビレの棘に毒を持っており、毒はそんなに強くありませんが、**筋肉の脱力や痙攣、筋肉痛、息切れなどの症状も見られ、最悪の場合は死に至ることもあるそうです。刺された場合はすぐに病院に行って診察を受けて下さい。**  
(岩場に多く、釣りなどで釣り上げた時は注意が必要です。)



**【ウミケムシ】** 刺されると赤くはれかゆみを伴い、**傷は化膿することもありますのでしっかり消毒してください。**刺さると毒が注入される構造なので、**毒針を抜いても毒は残ります。**  
(岩場や石ころの海岸付近に多く、釣りなどで良く釣れるが手に取らなければ刺されることはありません。)



**【ウツボ】** ウツボは、自分より大きな敵が近づいた時は大きな口を開けて威嚇し、それでも敵が去らない場合は咬みつきます。毒はありませんが、**歯は鋭く顎の力も強いので、人間が咬みつかれると深い傷を負うことになります。**  
(岩場に多く生息し、近寄ると威嚇してくる。うっかり近寄りすぎると噛まれて受傷します。)



**【シロガヤ】** 一見シダ植物のように見えますが、立派な虫で毒をもっています。症状は主にかぶれなどです。触れてみると刺胞から刺胞毒が発射され、**チクツとした痛みが生じやがて疼痛や痒み**に変わります。  
(クロガヤ、アカガヤ) (岩場に多く生息し、岩場や潮だまり等でうっかり触れてしまい受傷します。)



**【ガンガゼ】** ガンガゼの長い針は、**容易に皮膚を突き破り表面に逆針があるため抜けない。**また、針には毒があり、**いつまでも痛みが続きます。**  
(ウニ) (岩場に生息し、攻撃はしてこないが岩を掴む際や着地した際に受傷することがあります。)



**【ゴンズイ】** 巨大な大群を作り身を守るナマズのような格好をした小型の魚で、毒は背ビレと胸ビレのトゲにあります。体には薄い黄色い線があり大きくなるにつれて次第に消えていき、体の色がやや赤褐色のような茶色の色になってきます。患部は**刺された瞬間から激しく痛み、赤く腫れて時間の経過と共にしびれや麻痺、吐き気の症状が出ることもあり、棘には返し(ささくれのようなもの)があるため、棘が抜けた後に多量の出血を伴うこともあります。**  
(岩場に多く手に取ったり、捕まえようとしないかぎり攻撃してくるようなことはありません。)



**【アカクラゲ】** 触手は20cm～50cmあります。毒は非常に強く、**刺されると赤い斑点ができて火傷に似た激痛が走ります。ひどい場合には呼吸困難を起こします。**アカクラゲは乾燥すると刺胞が、舞い上がり鼻粘膜を刺激してくしゃみを起こすことから、「ハクションクラゲ」と言われているそうです。  
(海水浴場や岩場等海全体で生息し、瀬戸内海では夏場に多く出現し近寄ると触手に触れて受傷します。)



**【アンドンクラゲ】** 名前どおり、行灯を思わせるような体長3～3.5cmほどの立方型の傘を持ち、その下には4本の鞭状の20cmほどの長さの触手を持つ暖海性の種です。**電気クラゲと呼ばれる種類で、刺されると激しい痛みを伴います。**  
(水温が20以上になると成長して、8月下旬から9月下旬頃まで日本各地の沿岸に出現します。)



最近、海水温の上昇により生態系が変わり、今まで瀬戸内海には生息していなかった魚介類も見かけられるようになり、新たな危険生物も増えるかもしれません。毒をもつ魚等に刺された場合、**まずは、病院に行き適切な治療を受けて下さい。**